

心の支え求め

旗揚げ公演 7月に計画

患者らの劇団

八尾の松尾クリニック



初公演を目指してけいこに励む患者たち
＝八尾市東本町3丁目の松尾クリニックで

八尾市内の心臓病や高血圧症などに苦しむ人たちが、医師の呼びかけで劇団「松尾クリニック」を旗揚げし、七月の初公演を目指してけいこに励んでいる。闘病生活を続ける通院患者たちは何卒の精神的な支えを求め、この劇団が、劇を通じて互いに励まし合ひ、健康の大切さを訴える。

呼びかけたのは、八尾市東本町三丁目の松尾クリニック(松尾美由紀院長)で三年前に開業してから、リハビリのためのセミナーや書道などの文化教室を開いていく。去年十月、松尾院長が治療がら療法の一つとして

心臓病や高血圧症…20人待合室で練習

同病院に通院する患者のほか看護婦らも加わり、総勢二十人。演劇の経験は、最高齢の八十一歳のおばあちゃんを除いて初めて。せっかくなら本格的にと、横浜市在住の放送作家篠崎博さん(左)に脚本を頼んだ。演題は「校屋敷」。市内に校屋敷と呼ばれる邸宅に住む元大学教授と、近所の人たちとの人情話。毎週三曜日の午後、病院の待合室が練習の場になる。体調が悪く全員がこわわれないことが多いが、患者たちは一人役、二役をこなしてカバール合っている。団員の一人の川崎鉄天さん(左)は「練習でも緊張して汗が出ますが、気楽にやります」と楽しんでいる。